事務事業評価表

1．基本事項

作成日　令和08年06月05日(金)

事務事業	幹線道路整備事業	担当課	道路河川課	担当係	幹線道路整備係	管理番号	49221
総合計画 大項目	5 快適で利便性の高いまち	事業区分	■ 自治事務　□ 法定受託事務				
総合計画 中項目	2 交通アクセスの便利なまちづくり	根拠法令個別計画等	道路法、深谷市生活道路整備の事業実施に関する要綱				
総合計画 小項目	1 道路・交通環境整備の推進						
総合計画 主要プロジェクト							

事業概要	市内の道路ネットワークの充実を図るため、幹線道路の拡幅や歩道の整備を行う。
目的 ※何のために	交通の利便性と安全性の向上のため。
対象 ※誰・何を対象に	未改良の幹線道路
手段 ※どのように	自治会からの要望や優先順位を踏まえ、交通の危険性等も考慮し道路整備を行う。
成果 ※何を求めるか	市民の快適かつ安全な交通環境を確保する。
執行体制	■職員 ■一部委託 □全部委託 □指定管理 □市民ボランティア　□NPO等　□その他(　　)

事務事業を構成する予算事業	区分	款	項	目	細事業名	前年度決算額（円）

本事業の主な業務	
・生活道路整備要望の調整業務	・
・幹線道路の整備	・
・関係機関との調整業務	・
・測量設計・物件調査業務	・
・	・
・	・

2．事業費（投入コスト）

※令和７年度は決算見込み額です。

単位：円

区分			令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
年度別計画								
事業費	予算（現額）		0	0	0	0	0	
事業費	決算額		0	0	0	0	0	
事業費	財源内訳	国支出金	0	0	0	0	0	
事業費	財源内訳	県支出金	0	0	0	0	0	
事業費	財源内訳	地方債	0	0	0	0	0	
事業費	財源内訳	他特定財源	0	0	0	0	0	
事業費	財源内訳	一般財源	0	0	0	0	0	
人件費	従事職員数（人）		1.66	2.31	2.33	2.33	2.23	
人件費	人件費相当試算※		13,063,465	18,503,482	19,157,822	19,751,630	19,642,930	
総事業費試算			13,063,465	18,503,482	19,157,822	19,751,630	19,642,930	

※　人件費相当額試算は、従事職員数に平均人件費を用いて試算したものです。

３．評価指標

区分	指標名		単位	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
活動指標１	道路工事施工延長	目標値	m	657.00	875.00	1,016.00	619.00		
		実績値		663.50	939.50	971.70	757.00		
	目標値の算定根拠/実績値の出所		予算から算出した工事延長　／　当該年度の実績（発注済延長）						
	実績値の算出式								
成果指標１	幹線道路整備率	目標値	%	72.28	72.33	72.75	73.17	73.59	74.01
		実績値		71.91	71.92	72.09	72.15		
	目標値の算定根拠/実績値の出所		過去５年間の伸び率の平均値を加算　／　道路台帳１，２級幹線道路改良率						
	実績値の算出式								
		目標値							
		実績値							
	目標値の算定根拠/実績値の出所								
	実績値の算出式								
		目標値							
		実績値							
	目標値の算定根拠/実績値の出所								
	実績値の算出式								
		目標値							
		実績値							
	目標値の算定根拠/実績値の出所								
	実績値の算出式								
		目標値							
		実績値							
	目標値の算定根拠/実績値の出所								
	実績値の算出式								

４．観点別評価

観点別評価は、指標達成の有無の他、その達成率も勘案して総合的に評価します。
目標値の設定がないものについても、進捗状況等を踏まえA～Cの三段階にて評価します。
事業達成度評価は、意図した活動により事業目的に適う成果がでているかを評価します。
（評価基準）（A:達成している　B:おおむね達成している　C:達成していない）

（１）事業達成度評価

区分	評価の観点	評価	評価理由・指標数値の推移
活動	・活動実績は、見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか。	A	幹線道路整備工事については年度当初に予定していた路線を発注することができたため、目標を達成することができた。
成果	・意図した成果が上がっているか。 ・指標未達成の場合は、その原因を分析できているか。	B	活動指標の発注済延長については目標値を達成したが、これは予算ベースの設定であるため、これが達成されても幹線道路改良率は目標値に届かない結果となった。この主な要因としては工事内容が単位延長あたりのコストが非常に高い交差点改良の実施や建設資材の高騰などである。しかし、計画した整備路線については着実に進捗している。
		評価者	幹線道路整備係　若杉

（２）事業効率性評価

事業効率性評価は、執行体制や手段など効率的に事務事業を執行しているかを評価します。
（評価基準）（A:効率的である　B:高める余地あり　C:効率的でない）

区分	評価の観点	評価	評価理由
効率性	・ICTの活用や業務改善が充分か。 ※検証必須 ・コスト面など効率的に執行できているか。 ・民間委託や他事業との統合・連携が可能か。	B	用地買収が完了し区切りの良いまとまった区間を一つの工事で発注することにより、効率的に執行することができた。
		評価者	幹線道路整備係　若杉